

=====
本メールマガジン[NEE Mail Magazine]は、経済教育ネットワークより会員の
皆様にお送りしております。
=====



◆ NEE Mail Magazine 131号 ◆

-----2019-12-2◆◇

早くも12月、師走になりました。

一年の総括をする季節です。教育の世界での話題は、大学入試の新テストでしょう。小中では、新学習指導要領の実施を前に準備が進んできています。教員の働き方に

も注目が寄せられています。学校をとりまく状況は問題山積ですが、現場での仕事は一日たりとも手をぬくわけにはいかず、最後まで師走なのが現状です。

そんな今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【今月の内容】

【1】最新活動報告

19年11月の活動やニュースを報告します。

【2】定例部会のご案内・情報紹介

部会の案内、関連団体の活動、ネットワークに関連する情報などを紹介します。

【3】授業のヒント「<鉄板>教材の使い方」

【イベントの案内】「先生のための経済教室」にご参加ください

■「先生のための冬休み経済教室」(東京)を開催します。

「変わる入試と授業の改善」をテーマとしたシンポジウムです。

今回の教室は、大学入試の新テストに加えて、高校入試の動向もふまえた、社会科・公民科全体の授業の在り方を考えてゆきます。受験校だけでなくすべての学校種の先生方の参加を期待しています。

日時:2019年12月26日(木) 13時00分~17時00分

場所:慶應義塾大学三田キャンパス東館8階東館ホール

内容:基調報告に、大倉泰裕先生(千葉県立松戸向陽高等学校、元文科省教科調査官)、それをうけて李洪俊先生(大阪市立大和川中学校)、杉浦光紀先生(都立井草高等学校)、金子幹夫先生(神奈川県立三浦初声高等学校)から現場での取組みを報告いただき、討論をおこないます。

■「先生のための経済教室」(沖縄)を開催します。

日時:2020年1月18日(土)

場所:沖縄県立図書館ビジネスルーム

内容:宮崎三喜男先生(都立国際高等学校)、河原和之先生(立命館大学他)、篠原総一代表の講演があります。

【 1 】最新活動報告

■東京部会(No.113)を開催しました。

日時:2019年11月14日(木) 19時00分~21時15分

場所:慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟446会議室

内容の概略:参加者10名

(1)冬休み経済教室の準備状況の報告がありました。

ちらしは11月後半に東証の12月イベント案内と同封で関東の中高に配付。中高の研究会経由での参加要請も行なうことが報告されました。

(2)参加者からの実践報告、冬の教室にむけての報告案の提示がありました。

1)杉浦光紀先生(都立井草高等学校)の報告案「新テストに向けての授業づくりの試み」の提示と検討が行なわれました。

受験校の立場から、試行テストのスミス国富論を素材にした問題(H30「現代社会」第4問)を取り上げた授業例と、現在担当している「倫理」での論述の授業例を提示して、授業づくりの提言を行なうという流れの発表を予定しているという報告でした。

検討のなかで、篠原代表からは、スミスの問題は概念を知っていれば解けてしまう問題であり、「見えざる手」の意味を知っている受験生には読解問題、思考力の問題にはならないという指摘がありました。

また、高校入試でも一般常識さえ身に着けていれば公民の知識が無くとも解けてしまう読解問題が出始めていて、社会科で何を教えるのかという問題が浮上しているとの指摘もありました。

2)藤牧朗先生(目黒学園中学・高等学校)から、テスト問題と授業に関する報告がありました。

藤牧先生の考査はすべて論述式で、その背景には授業は教えるものではなく、授業を通して学び方を学び、探究、議論し表現するものであるという授業観に基づいたものです。

評価では、すべての問題に関して、ルーブリックによる基準(内容面では三段階、表現面で二段階)がつくられており、生徒にもテスト問題のルーブリックを配付し、自己採点を行なうとのことでした。

ルーブリックに関しては、大学でも本格的に導入がされはじめていて、生徒の学

ぶモチベーションや考える授業づくりとの関係で、さらに注目してゆくことになりました。

3)金子幹夫先生(神奈川県立三浦初声高等学校)から、冬の経済教室で提起する授業案の紹介がありました。

金子先生は、新テストを受験しない高校生向けの、新テストを意識した授業として、『レモンをお金にかえる法』の続編を使った体験型授業を提案するとの報告でした。

検討では、ゲーム性もあり考えるきっかけとなるすぐれた授業ではという意見がでる一方、教材から教科書の記述を理解させるまでゲームとの関係から理解させるための方策は何かが話題になりました。

このプログラム授業を受ける前と後で同じテストを実施し、その変化を比較すれば、教材の有効性が分かるのではないか、という提案もあり、冬の教室での報告を期待する声が多くでした。

(3)その他、報告がありました。

1)HPのリニューアルの状況が報告されました。

2)3月21日実施予定の札幌での春の経済教室の概容の報告がありました。

今回は、金融広報委員会との共済で、日銀関係者の講演、中学は行壽浩司先生(福井県美浜町立美浜中学校)の公共財ゲームの報告、高校は山崎辰也先生(北見北斗高等学校)の地域経済に関する実践の報告という柱で実施予定です。部会内容の詳細は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo113report.pdf>

【 2 】定例部会のご案内・情報紹介

<定例部会のお知らせです。(開催順)>

■大阪部会(No.66)を開催します

日時:2019年12月7日(土) 18時00分~20時00分

場所:同志社大学 大阪サテライト

大阪市北区梅田 1-12-17 梅田スクエアビルディング 17階

■札幌部会は春の経済教室として開催予定

日時:2020年3月21日(土) 14時30分~17時00分

場所:キャリアバンク セミナールーム(予定)

札幌市中央区北5条西5丁目7 Sapporo55ビル5階

内容が決まり次第HPに掲載します。

■東京部会 (No.114)を開催します

日時:2020年1月30日(木) 19時00分~21時00分

場所:慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟 446 会議室

概略・参加申し込みは以下をご覧ください。

<関係団体の情報>

■東京証券取引所主催「先生のための冬休み経済セミナー」

日時:2019年12月30日(月) 10時00分~14時25分

詳細は下記の Web サイト<なるほど！東証経済教室>をご覧ください。

<https://www.jpx.co.jp/tse-school/program/05.html>

【 3 】授業のヒント 「<鉄板>教材の使い方」

<鉄板>教材とは、いつでも・だれでも使えて授業効果が上がる、共有財化している教材を言います。

そのなかで今回取り上げるのは、「貿易ゲーム」です。

(1)貿易ゲームの仕組み

貿易ゲームは、イギリスの開発教育のなかで提案され、世界中で実践されている教材で、先生方の中にもすでに実施されている方もいるかと思えます。

この教材は、参加者(生徒)を四つのグループ(先進国、中進国、資源国、途上国)にわけて、それぞれのグループには、資金、機械や道具、資源、労働者数にハンデをつけて、製品(○、△、□など)を作らせ、その過程で、様々な発見を行なわせるゲームです。

準備するものは、はさみ、定規、コンパス、鉛筆、資源としての紙などで、それを袋に入れて配付します。

(2)貿易ゲームのねらい

このゲームの一番大きなねらいは、南北問題を体験させることにあります。

特に途上国になった生徒たちは、袋のなかから出てきた、道具と資源、お金を見て、これで何が作れるのか途方にくれてしまいます。

そのうち、周りの国の状況を見て、何かをしなければ何もできないと気づき、交渉をはじめてゆきます。

先進国、中進国、資源国もそれぞれの初期状況から、製品作りに励んだり、交渉したり動き始めます。

すべてのグループで期待されているのは、自分たちの状況を判断すること、そのなかで使える資源をどう活用するか、さらに、交渉のなかで、どう相手を説得するかなどを考え、実行することです。

そして、最後にこのゲームと現実をリンクさせて、問題を発見し、その解決方向を考えてゆくまでできれば成功です。

(3) 様々な授業での反応

実は、筆者は当初このゲームには批判的でした。

というのは、実践事例をみてゆくと、「南の国のくやしさがわかりました」というレベルの反応で終わっているものが多く、時間をかけて、手間暇をかけて準備するだけの意味がどれだけあるのかと疑問を持っていました。

また、1時間の授業時間で生徒が発見まで行けるのかという心配もありました。ところが、実際にやってみると、短時間でもかなりの学習効果があることがわかったのです。それ以来、このゲームのファンです。

最近も、大学生(50人)と高校生(40人×2クラス)に実施しました。

ともに、中高でやったことがあるという学生、生徒が数人いましたが、はじめてというケースがほとんどでした。〈鉄板〉の割には、普及はまだなのかと感じました。

大学生では、次のような感想が出てきました。

- ・自分のチームが裕福なので工夫がたりず利益を追求しすぎた。自分たちが途上国のことを考えきれないことに驚いた。途上国が困っているのに手を貸さなかったことを反省。(先進国)
- ・ルールを知ること、自分の班の状況を判断すること、それを行動に移すことが大事だと気づいた。行動の遅さがもっと成果をあげられなかった要因。自分の恵まれた環境が絶対的ではなく、いつでも崩れるものであることを痛感。(中進国)
- ・他国での資源の価値に気づき、他国で使っていない道具を安く手に入れ、大金を稼ぐことができた。いかに道具を高価値に見せるか、いかに少ない資源で技術を手に入れるかが勝負。ただし、現実には資源国は先進国から搾取されている。技術移転も安易にやると先進国でも追い越されることがあることに気づいた。(資源国)
- ・国際貿易秩序が先進国に有利な形で設定されていること、一見非合理と思われるようなルールが維持されている場合があること(製品の価格差の非合理性)を考える必要がある。(途上国)
- ・資源や資金に乏しくても、労働力をトレードしたり、スキルをつかって自国にしかない武器を磨いてゆく必要を感じた。(途上国)

やはり途上国の発見が多いことがわかりますが、大学生らしく、それぞれの国の特色を冷静に分析しているのが特徴です。

なかには、「なんだか就活みたいなゲームだ」とか、「隣人を愛しなさい」というキリスト教の精神からすると、明らかな人の罪」と書いた学生もいました。

高校で実施した時も、日頃、手強い生徒たちが、30分という時間なかで、分業で

作業したり、交渉役をたてて蝶々発止の交渉をやったり活発に活動していました。

なぜこのゲームをやったのかという問いには、次のような感想が出てきました。

- ・貧しい国でも、条件と工夫で中進国を追い抜けるくらいの成長ができるということを知るため。
- ・考えるすべての戦略を出し、議論の上選択し、実行するというサイクルを獲得するため。経済の仕組みを実践的に学ぶため。
- ・自分自身がモデル化された外交の当事者になることで、世界の経済のしくみを身をもって理解するため。
- ・途上国は、少しの工夫と知恵があれば、爆発的に発展することが出来るため、良い指導者が必要だということを知るため。
- ・自国を経済発展させる模擬ゲーム。だが、紙やはさみ、友達との交渉など具体的にマイクロなゲームの形に落とし込むことで、リアルに経済発展の大変さが分かった。暴落があったり、最初から経済格差があったり、経済を楽しく体で学ぶためにやったと思う。

(4) <鉄板>教材の使い方

最近の事例を紹介しましたが、学校種、生徒のレベルに応じて発見の程度はちがっても構わないのが<鉄板>教材の強みです。

したがって、中学校では、格差の現実のまゝに手も足も出ないという状況で終わっても良しです。そこから、感情論からはじまり、現実を見直し、解決への手がかりになるような学習を進めればよいと思われまゝ。

高等学校では、もう少し深めて、絶対優位、比較優位の考え方までたどり着けるように指導することができれば上出来です。また、作業の生産性をあげるための分業の工夫などにも注意がゆくと、現代の大量生産社会の秘密に体験的に到達できるでしょう。

経済の観点だけでなく、国際政治の学習とリンクさせることも可能です。

さらに、ゴミとして出た紙の余りから環境問題へと発展させることもできます。

この貿易ゲーム、経済の授業の最初に実施しても良いし、国際経済を学んだあとに総括として取組ませても良いという、融通がきく点も<鉄板>たる所以です。開発教育のセミナーなどでは、半日くらいかけてじっくり取組ませますが、学校では1時間で可能です。リアペ(講義に対する意見や感想)などの検討時間とその後の発展学習や探究活動への導入時間をいれても2時間でまとまった学習ができます。

100円ショップにいはさみや定規、コンパスを仕入れて、早速取り組んでみてください。(新井)

【 4 】編集後記(みみずのたはこと)

今年の教育界のこれ一番という言葉は、某大臣の「身の丈」発言だったように思います。「それを言っちゃあ、お終いだよ」という寅さんの言葉が浮かびます。もう一つ言えば、「Do you know what you are?」という英語も浮かびました。皆さんの今年これ一番の言葉はなんだったでしょうか。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページより
お手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

----- (C) Network for Economic Education ◆◇